

## トルコの人々の命を守る、新潟・プロテックエンジニアリングの雪崩予防柵

国際協力機構（JICA）は、10月8日、株式会社プロテックエンジニアリングと「トルコ国雪崩対策の技術移転と雪崩予防柵の普及・実証事業」にかかる業務委託契約を締結しました。本契約は、我が国の中小企業を対象に、JICAが本年度より開始した「民間提案型普及・実証事業」として実施されるものです。

トルコ東部の山岳地域では冬期間の降雪により、雪崩（なだれ）による人的被害が数多く発生しており、山岳部で生活する住民への雪崩被害軽減、雪崩に起因する道路閉鎖による物流の非効率の改善など雪崩防災対策が大きな課題になっています。トルコ政府は、国内に雪崩防災対策に関する技術者や企業が存在しないことから、かねてより現地に則した技術支援を他国に求めてきました。

今回契約した事業では、トルコ東部の山岳地における雪崩危険箇所、現地の地形や積雪状況に適した当社開発の雪崩予防柵などを設置します。また、インターネット上でリアルタイムに状況を確認・観察できる雪崩モニタリングシステムを試験導入することで製品の効果を実証し、積雪期に立ち入れない山岳部においても、雪崩被害の軽減や雪崩に起因する道路閉鎖等の非効率改善に寄与することを目指します。

今回受注した株式会社プロテックエンジニアリングは、同社製品がトルコの開発課題である「雪崩災害の軽減」の解決に資するものであることを実証すると共に、近隣国への展開も視野に入れ、雪崩危険地域の現地視察、及び有効な対策施設の設置提案活動による本格的なビジネス展開を目指しています。また、本事業は、雪崩の専門家である新潟大学災害・復興科学研究所和泉教授の協力も得て、トルコ国内での勉強会や日本での研修を通じて、雪崩対策に関する経験や知見、技術を移転し、雪崩被害軽減だけでなく持続可能な雪崩防災対策の仕組み作りにも貢献する、というビジョンに基づき事業を実施していきます。

「民間提案型普及・実証事業」は、我が国の中小企業等の製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証するとともに、その現地での適合性を高め、普及を図ることを目的としたもので、平成25年5月に第一回の公示を行いました。JICAは、開発途上国の開発ニーズや課題の解決に資する技術を有する株式会社プロテックエンジニアリングと連携し、同社の技術の普及を通じ、開発途上国の課題解決に貢献していきます。